



佐世保市立黒髪小学校

所在地 佐世保市黒髪町52-1
校長 木村 純一
児童数 475名
学級数 18学級



【教育目標】

将来かなえたい夢や希望を語り、その実現のために意欲的に学んだり、努力したり
(大志) (自己実現)
できる、優しさとたくましさを備えた黒髪っ子の育成をめざす。
(自立・自律) (教育)

ひと

ふるさと

社会

体験活動により、人とつながり、触れ合う。	地域の自然や施設、歴史や文化などについて感心を持つ。	福祉・平和など、社会事象について体験的に学ぶ。
<ul style="list-style-type: none">・栽培活動・体験活動・家族や地域とのつながり・人への関心・相手の思いや願い・コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none">・地域の自然・地域の施設・地域の歴史、文化・ふるさとへの愛着	<ul style="list-style-type: none">・高齢者との交流・障がいの擬似体験・自分にできる社会貢献・戦争の悲惨さ・平和の大切さ

(1) 各学年の具体的な取組内容

【第1・2学年】「ぐんぐんのびろ」「老人クラブとの交流」

【ねらい】

- ・野菜を育てることで、命を大切にする心を育てる。
- ・地域のお年寄りに昔遊びを教えていただくことで伝統的な遊びに親しむとともに、地域の方との交流を深める。

【活動の概要】

- ・さつまいもやミニトマト、ピーマン、キュウリを育てた。
- ・つるさしや収穫では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、その方法やお世話の仕方を教えていただいたりお手伝いいただいたりした。
- ・昔遊びでは2年生がリーダーとなって1年生のお世話をしながらお年寄りと交流を深め楽しんだ。

【成果と課題】

- ・ゲストティーチャーの話聞くことで命の尊さに気づき、熱心に世話をすることができた。
- ・さつまいもの栽培では、自分たちで世話をした作物を食べることで収穫の喜びを感じ、食べ物への感謝の気持ちをもつことができた。子どもたちではできない畑の整備や芋の調理など、様々な人にお世話になり、多くの人々に支えられていることに気づくことができた。
- ・昔遊びを通して、地域のお年寄りとの交流を深めることができた。2年生にとっては、1年生のお世話をしながら活動することで、中学年に向けての心構えをもたせることができた。



【第3学年】「黒髪・佐世保のじまんを見つけよう」「感謝の気持ちを表そう」

【ねらい】

- ・地域にはどんなじまんがあるのか見たり見学したりして、調べたことを発表する。
- ・自分の成長を確かめるとともに、感謝の気持ちを伝える。(パンジーを植える活動も含む)

【活動の概要】

- ・総合学習：地域を知ろう「黒髪・佐世保のじまんを見つけよう」の学習において、地域にはどんなじまんがあるか、見学に行ったりインターネットで調べたりした。そのことを発表し広げることができた。
- ・自分たちを支えてくれた6年生への感謝の気持ちから、卒業式に向けてピオラやパンジーの栽培を行った。

【成果と課題】

- ・自分たちが生活する地域を見つめ直し、新たな発見ができた。
- ・学習課程の中に見学を入れたことが、児童の意欲向上につながった。



【第4学年】「平和について考えよう」「二分の一成人式」

【ねらい】

- ・原爆について知り、戦争の悲惨さから長崎・佐世保の平和について考える。
- ・今まで育ててくれた家族やお世話になった人への感謝の気持ちを育て、将来の夢に向かって努力する態度を育てる。

【活動の概要】

- ・6月に長崎の平和公園・爆心地公園・原爆資料館に行き、8月9日の平和集会で全校に発表を行った。
- ・「二分の一成入式」では、一人ずつステージの上で将来の夢を発表した。
- ・保護者・児童との手紙の交換を行った。



【成果と課題】

- ・平和案内人のみなさんの貴重な話を聞くことにより、戦争の悲惨さや平和の大切さについて真剣に考えることができた。
- ・活動を通して、成長した自分や家族への感謝の気持ちを改めて感じる事ができた。

【第5学年】 「黒髪歴史や伝統芸能を伝えよう」

【ねらい】

- ・黒髪地区に昔から伝わる伝統芸能である「木場浮立」の由来や歴史を知り、体験意欲をもたせ、郷土を愛する心情を育てる。



【活動の概要】

- ・「2月の授業参観で木場浮立発表会をしよう」という目標に向かい、保存会の方に10時間に渡ってご指導いただき、それぞれの役回りを習得し、多くの方々を招待して木場浮立発表会を実施した。

【成果と課題】

- ・木場浮立保存会の方の指導を受けての練習を行えたことで、木場浮立に対する正しい知識を得るとともに、木場浮立に対する愛着・伝統を受け継ぐことの素晴らしさを体感することもできた。
- ・保存会の方の高齢化や継承者の減少のため、継承活動が困難になってきている。活動の様子を写真やビデオに保存し、今後も継続して黒髪小学校での継承ができるようにしている。

【第6学年】 「お年寄りが生き生きと暮らせる社会に」

【ねらい】

- ・お年寄りとのコミュニケーション力を身につけるとともに、相手を思いやって行動する態度を養う。

【活動の概要】

- ・6月に社会福祉協議会からシニア体験セットを借り、お年寄りの体を疑似体験することで、お年寄りの思いを想像した。
- ・校区内にある特別養護老人ホーム「チューリップ」の訪問活動を、各学級2回計6回実施した。1回目の訪問の反省を生かし、より相手に楽しい時間を過ごしてもらうためには、どのような会話や遊びを取り入れればよいか工夫することができた。
- ・ふれあい後、「お年寄りが生き生きと暮らせる社会にするために、自分たちができることはないだろうか」というテーマで、アンケートやインタビュー、本やインターネットでの調べ学習を行い、保護者、5年生、チューリップの職員の方々を招いて、ポスターセッションを行った。



【成果と課題】

- ・お年寄りとおふれあったことにより、コミュニケーション力を高めることができた。
- ・ふれあいから調べ学習を通して、相手の立場や気持ちを思いやる心を育てることができた。
- ・ポスターセッションを行うことで、表現力を高めることができた。

(2) 学力向上の取組

①子どもたちの実態把握

本校児童の学力課題に、「国語科の書く力」「算数科の思考力・表現力」の不足が挙げられていた。また、「学習意欲」の個人差が、学習の成果を大きく左右していた。そこで4月に2～6年生で学力調査を実施し、研究の方向性を定める資料として活用した。また、児童の学習意欲向上を検証するため、「生き生き黒髪っ子アンケート」を6月と12月に実施した。

②校内研修の充実

前述の児童の実態を踏まえ、今年度は昨年度の校内研修テーマ「意欲をもち、生き生きと活動する黒髪っ子の育成をめざして」を継続し、児童の意欲を高める「集団づくり・授業づくり」のさらなる充実を図るとともに、平成30年度から実施される「特別の教科 道徳」の研究に取り組んだ。

ア：基礎研究

本年度は「児童の意欲向上」を目指す研究の3年次として研究構想を引き継ぎつつ、「授業づくり」においては、次年度より完全実施となる「特別の教科 道徳」を見据え、昨年度から取り入れてきたアクティブ・ラーニングの視点を生かした「考え、議論する道徳」への移行準備に取り組んだ。また、「集団づくり」においては、人権教育やソーシャルスキルトレーニングを活用することで、学級の指示的風土を高めるようにした。

イ：児童の意欲を高め、考え、議論する授業の実践

- ・ 学習の導入において、児童に身近な問題を取り上げたり、事前アンケートを実施したり、問題意識につながる資料を提示したりしたことで、学習意欲の向上が見られた。
- ・ 展開の工夫として、「気持ちメーター」「心の綱引き」「グループ討議」などを取り入れながら議論させたことで、児童の思考が深まり、自ら表現しようとする姿が見られた。
- ・ 対話的な学びの形は（ペア、トリオ、小グループ、全体）、全学年で実施できている。特に各学年で効果が見られたものは次のとおり。
 - ★「話す力・聞く力」レベル表の活用（全学年）
 - ★グループで話し合う際の「ホワイトボード」の活用（全学年）
 - ★ペア・グループ学習の充実（低・中学年）
 - ★ペアより多様な意見を出しやすいトリオ学習の定着（高学年）



③成果と課題

- ・ 児童の意欲向上を検証するための「生き生き黒髪っ子アンケート」の結果、「あいさつ」「ほめられた経験」「友達の良さを認める」「先生や友達の話をしっかり聞く」が向上したことが分かった。
- ・ 職員による自己分析の結果では、「考えの過程や根拠を書く場面の設定」「書く視点や条件を示す」「授業前後の変容を捉える」「話す力・聞く力レベル表を意識した指導」「ソーシャルスキルトレーニングの実施」等の意識が高まっていることが分かった。
- ・ 「特別の教科 道徳」の評価導入に向けて、全学年で取り組んだ研究授業をもとに通知表所見文例案を作成し、次年度の準備をすることができた。
- ・ 全国学力学習状況調査において、国語、算数ともに全国および県と比べ伸び悩んだ。学力向上のさらなる具体的な取組が必要である。